

第50回 宝塚市病院事業運営審議会議事録

日時：平成29年3月22日（水）午後2時00分～午後3時47分

開催場所：宝塚市立病院 講堂1

出席委員（敬称略）	11名
医療機関等の代表者	金川 清人、明渡 寛、田川 宣文、村上史恵
公共的団体の代表者	福住 美壽
知識経験者	西山 静香、森脇 俊雅
関係行政機関の職員	野原 秀晃
一般公募	榊原 裕、森山 隆輝、山本 麗子

欠席委員（敬称略）	3名
公共的団体の代表者	村上 茂樹、吉村 雅子
知識経験者	細谷 友雅

※ 委員14名の内、出席者11名で過半数を超えており、審議会規則第6条第2項の規定により本会は成立。

傍聴者 0名

1. 病院事業管理者あいさつ

2. 議題

(1) 第49回宝塚市病院事業運営審議会議事録確認（資料1）

・資料1のとおり承認された。

(2) 宝塚市立病院改革プランについて（資料2、3）

・事務局より資料2、3のとおり説明があった。

以下のような質疑等があった

委員 H28を平成28年度に訂正するということが表の中はH28となっているが。

事務局 表の中はそのまま表下の箇所の訂正である。

委員 パブリックコメントが無かったことは率直に言うとは残念である。

委員 パブリックコメントに意見が無いということは年間通して何件かある。市民の皆さんが、興味が無いというわけではなく難しかったのか、これだけのこ

とが書かれているため意見が無かったのではないかと思う。

事務局 最近の傾向としてパブリックコメントの数が少ない状況にある。新型インフルエンザの計画を作った時も0件であった。同じように周知しているので中味が一般的でなかったのかという部分はある。進捗について十分報告して理解を得られるようにしていきたい。

委員 意見が無かったことがよくないということではない。

会長 肯定的に受け止めてこのプランをきっちりと遂行することに尽力していただきたい。

委員 改革プラン29ページの損益計算書と資料5の平成29年度予算の数値が若干違うのはなぜか。

事務局 プランと予算編成はほぼ同時期にしているため内容的にはほとんど同じである。しかし消費税の取り扱いをどこに計上するかということや市の繰入金当初病院の想定した額よりも少なかったため予算書では減額となり平成29年度予算はこのようになった。

会長 宝塚市立病院改革プランは最終承認ということによろしいか。

全員一致で承認された。

(3) 宝塚市立病院中期事業計画重点施策進捗状況(資料4)

・事務局より資料4のとおり説明があった。

以下のような質疑等があった

委員 がん診療拠点病院を目指すところをいつごろを予定しているのか。

事務局 がん診療拠点病院の要件に放射線治療件数が一定の件数を満たすとある。化学療法やがん手術件数は要件を満たしている。平成30年4月に放射線治療を開始し、県に件数報告を行うのが平成31年度になるとすると、平成31年度後半に認可され平成32年4月から正式にがん診療拠点病院になるのではないかと考える。

委員 放射線治療をする医師は何人になるのか。

事務局 兵庫医科大学から治療医、治療技師が来ることになっている。まだ何人という明確な結論はもらっていない。

委員 病院は特に医師の確保が基本になる。婦人科や他の科でも足りないということで、目標は書いてあるが具体的にどのように進行しているのか。

事務局 医師が不足している診療科は呼吸器内科、糖尿病内科、リハビリテーション科、産婦人科である。周産期については市立伊丹病院との連携で今後もやっていく。婦人科の入院診療は平成32年か平成33年に開始を予定している。他の科については、内部の医師の担当を見直し呼吸器内科を強化するなど対応している。新たに医師が確保出来たという状況ではない。

- 委員 研修医制度の改革等があり大学病院との関係が難しい時代になっている。その中でいかに交代する医師の替わりを補充するかである。整形外科も4名の医師が辞めるという事であった。これまで妙中事業管理者がご苦労されたと思う。今後いかにうまく提携していくか具体的にはどのように考えているのか。
- 事務局 整形外科は大学と良好な関係を持ち、今回も医師がプラス1名補充され増強できた。兵庫医科大学、神戸大学、大阪大学の3つの大学と人事について日頃から情報交換して依頼をしていく。今後とも関連大学と良好な関係を保ち密接に働きかけながらこの地域の医療を担っていきたい。事業管理者は3月末で退官するが引き続き何らかの形で指導を受ける事が出来る。大学との関係もこれまでと変わらずうまくやっていると考える。医師確保に努めていきたい。
- 会長 アクションプランの評価のところで○がついているが表現として解りにくい。○がついていると前進しているという評価になる。例えば放射線療法開始のところは目標が0で評価が○である。表現としてこれでいいのか疑問であるため考えていただきたい。
- 委員 将来的に保険診療が拡大されたらダヴィンチ導入は考えているのか。
- 事務局 近隣では三田市民病院が導入している。導入を考慮するため今年度ダヴィンチのデモンストレーションを行った。病院経営を考えた時、収支バランスが重要である。ダヴィンチを導入したことで現時点では黒字にならない。診療報酬の変化をみた上で考えていく。
- 委員 ダヴィンチの導入は現時点では赤字であるが、医師のやる気というメリットはある。将来是非導入していただきたい。
- 事務局 長年の懸案であった放射線治療棟の建設と導入が平成30年4月から開始する。現在の投資についてはまずそれに全力投球している。近隣の病院がダヴィンチを導入しているので今後の課題として認識している。
- 会長 評価の表現の仕方を工夫するということをお願いしたい。宝塚市立病院中期事業計画重点施策進捗状況について承認ということでもよろしいか。
全員一致で承認された。

(4) 平成29年度 宝塚市病院事業会計予算の概要(資料5)

- ・事務局より資料5のとおり説明があった。

以下のような質疑等があった

- 委員 資本的収支の支出の退職手当組合負担金が平成29年度0になっているのは退職手当組合を退会し0になったのか。
- 事務局 職員の退職に備えて一定の金額を引き当てておく必要がある。引き当てるべ

き金額を超える部分について資本的収支に提示している。病院事業の退職手当組合への負担は超過する負担が続いていた。市を通じて退職手当組合へ申し入れを行い、病院の組合への負担率を引き下げることになった。平成28年度は1000分の175であったが平成29年度は1000分の75に引き下げられた。率を引き下げることによって負担と給付のバランスがとれる数値になった。これによって超過部分が解消され0という数値を計上した。

委員 病床稼働率が91パーセントということであるが、あと1～2パーセント上がれば経営がかなり良くなる。例えば病棟ごとの小集団活動などであと1パーセント上げれば医療収益がガラッと変わるくらい良くなるので是非工夫していただきたい。

事務局 1日患者数を職員にとって分かりやすい形で毎朝全職員へメール配信し周知し、目標達成に向けて仕事をしている。高齢化により退院できないケースが以前に比べて増えている。在院日数を短縮して多くの患者を受け入れ、それでも病床が一杯にならないようにし市民に適切な医療を提供するというのが基本的な役割である。アクションプランを作り退院支援を進める。病院だけでなく医師会、市役所等と連携し地域全体で切れ目のない流れを作っていくことが大きなテーマとなっている。

会長 平成29年度宝塚市病院事業会計予算の概要について承認ということによるしいか。

全員一致で承認された。

(5) (仮称) がんセンターの工事の進捗について (資料6)

- ・事務局より資料6のとおり説明があった。
- ・意見等なく承認された。

(6) その他

委員 病院の改築予定はあるのか。

事務局 病院は5月で築33年を向える。今後建て替えや移転等をどういう方向で進めていくか議論を始めようとしているところである。

事務局 建物保全計画を平成27年度に15年計画として作っている。15年間はこの建物で診療を続けていくということになっている。

会長 耐震工事は終わっているのか。

事務局 耐震については基準法をクリアしている。

- ・妙中病院事業管理者より退任の挨拶があった。

事務局 次回開催は10月予定。平成28年度決算と改革プランの進捗状況を報告予定である。日程はあらためて連絡する。

会長 これですべての議題を終了する。